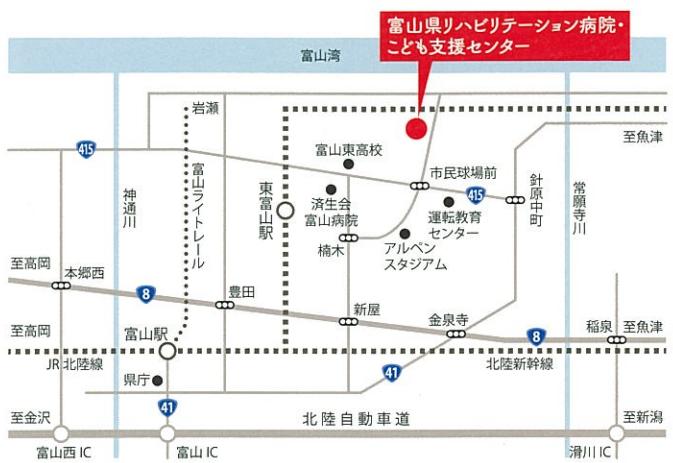


## Hospital Profile

### 病院案内

#### 交通のご案内



#### ■富山駅前「4番乗り場」より地鉄バス(所要時間約30分)

県リハビリテーションセンター行 乗車、終点下車

#### ■JR東富山駅下車、東富山駅口より地鉄バス

□東富山駅口より地鉄バス  
・県リハビリテーションセンター行 乗車、終点下車

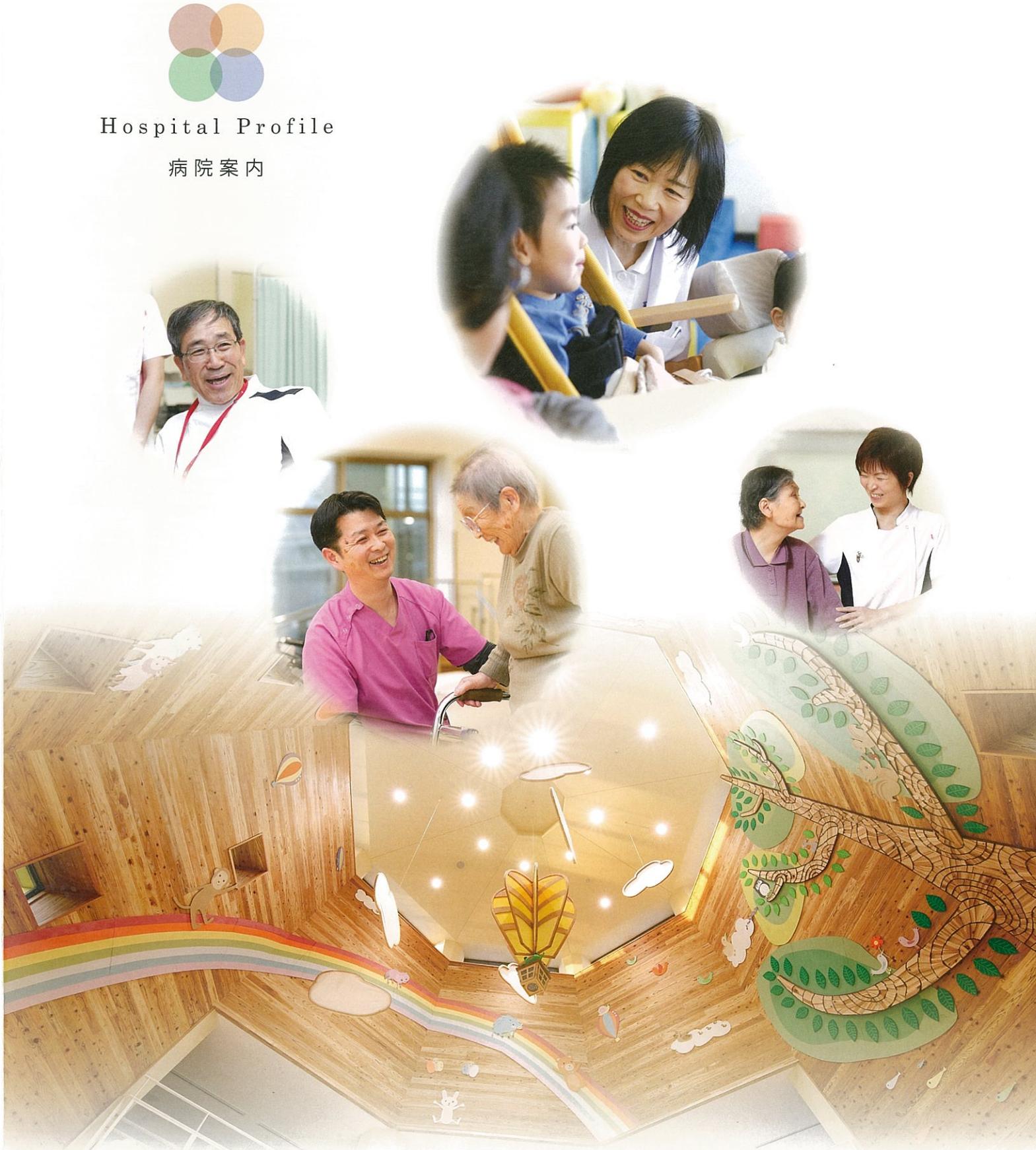
□タクシー5分

#### ■北陸自動車道

- 金沢方面
  - ・富山西ICより8号線方面へ向かい本郷西交差点右折、  
国道8号線新屋交差点左折
- 新潟方面
  - ・滑川ICより8号線方面へ向かい稻泉交差点左折、  
国道8号線新屋交差点右折

## 富山県リハビリテーション病院・ こども支援センター

〒931-8517 富山県富山市下飯野36番地  
TEL 076-438-2233(代) FAX 076-437-5390  
<http://www.toyama-reha.or.jp>



## 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

Toyama Prefectural Rehabilitation Hospital & Support Center for Children with Disabilities

誰もが、その人らしく暮らせる「共生社会」を目指し、  
障害児・者の自立と社会参加に向けて、  
総合的なリハビリテーションを推進し、地域社会に貢献します。

理念に基づき、5つの重点的な取り組みを推進します。

1. 利用者本位の安全で安心できるサービス、良質な医療と福祉の提供に努めます。
2. 高度・専門的なリハビリ医療や福祉との連携により総合的なリハビリテーションを推進します。
3. 地域包括ケアシステムに貢献する地域リハビリテーションを推進します。
4. 専門的な人材の育成及び働きやすい環境の整備を図ります。
5. 効果的、効率的な運営に努め、経営基盤の強化を図ります。

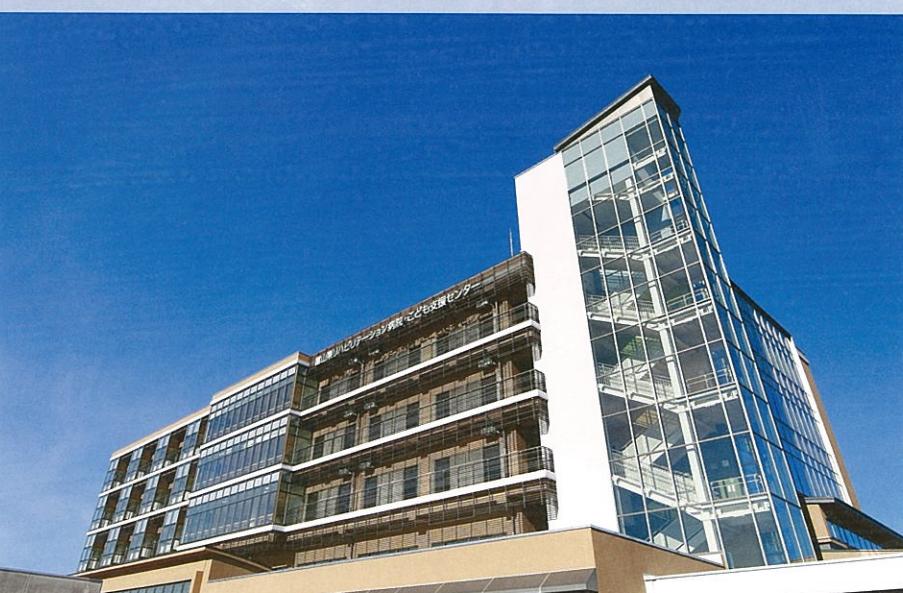
## 仁 和 志 育

私達は、ひとりひとりの尊厳を守り、思いやりと愛情をもって、  
信頼される医療・福祉を実践し、利用者の皆さんの自立を支援します。

私達は、医療・福祉の総合的なサービスのため、お互いの連携・協力のもと、  
満足度の高いチーム医療・福祉を実践し、社会に貢献し、地域と絆を結びます。

私達は、専門職としての誇りのもと、常に先進的な課題に挑戦し、  
最高のサービスを提供します。

私達は、こどもたちの発達、生きる力を育みます。



# 新しい総合リハビリテーションセンター誕生。

こどもから高齢者まで、様々なライフステージに応じた



## 【病院概要】

Outline

所 在 地 富山県富山市下飯野36番地  
 延 床 面 積 29,096.44m<sup>2</sup> (渡り廊下等含む)  
 構 造 鉄筋コンクリート造(3階以上は鉄骨造) 地上5階 こどもセンター(入所)は平屋建て  
 病 床 数 232床(回復期リハビリテーション病棟100床、一般病棟50床、こどもセンター52床、療養介護棟30床)  
 外 来 診 療 [常設科] 内科、神経内科、小児科、整形外科、リハビリテーション科、歯科(6科)  
                   [非常設科] 泌尿器科、脳神経外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、精神科(6科)  
                   [専門外来] 義肢・装具、パーキンソン病、非侵襲的脳刺激治療、嚥下、糖尿病、甲状腺、腎臓・高血圧、手・足の外科、リウマチ、子どもの心(児童精神)、てんかん(11科)

実 施 事 業 医療型障害児入所施設(50床)、短期入所(2床)  
 医療型児童発達支援センター及び福祉型児童発達支援センター  
 日中一時支援、児童発達支援事業、放課後等デイサービス、生活介護  
 保育所等訪問支援事業、障害児等相談支援事業(高志福祉相談センター)  
 療養介護サービス事業(30床)、短期入所(空床型)  
 富山県高次脳機能障害支援センター事業(県委託)  
 富山県発達障害者支援センター事業(県委託)  
 富山県リハビリテーション支援センター事業(県委託)  
 障害児等療育支援事業(県委託)



## ●切れ目のない医療と総合的な診療

### ・総合的な診療体制

総合的な診療体制を確保することで、障害の有無にかかわらず、利便性の高い病院を目指すとともに、各診療科が連携したスムーズな診療に努めます。

### ・地域医療機関との連携

地域連携バスや入院前訪問など、急性期病院との連携を一層強化することで入院待ち期間を短縮とともに、効率的・効果的リハビリを提供することにより、切れ目のない医療で早期回復・在宅復帰を実現します。

### ・「歯科」、「精神科」を常設化

常設科については、これまで非常設科であった「歯科」と「精神科」を加えて7診療科とし、非常設科は5診療科となります。

### ・専門外来の充実

従来の義肢・装具外来やパーキンソン病外来に加え、新たに「てんかん」や「非侵襲的脳刺激治療」を開設して9診療科となります。



区分	内 容
常設科(7科)	内科、神経内科、小児科、整形外科、リハビリテーション科、精神科、歯科
非常設科(5科)	泌尿器科、脳神経外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科
専門外来(9科)	義肢・装具、パーキンソン病、非侵襲的脳刺激治療、嚥下、糖尿病、手・足の外科、リウマチ、子どもの心(児童精神)、てんかん

## 診 る

急性期病院との連携による切れ目のない医療体制や、各科が連携した医療の提供で、総合的な診療を行います。



## 支 える

医師、看護師、療法士等による充実したチーム医療で、他病院では対応できない重症患者(障害・高齢・合併症など)を積極的に受け入れます。



## ●リハビリテーション医療

### ・重症な患者さんの受入

富山県におけるリハビリテーション医療の中核施設として、県民の皆さんに高度で専門的なリハビリテーション医療を提供するため、一般的の病院では治療対象としていない重度障害や、神経難病など多様な患者さんを受け入れます。

### ・早期機能回復・早期在宅復帰の実現

365日リハビリテーション(土・日・祝日も均等な訓練)などにより、早期の機能回復、在宅復帰を実現します。

### ・高次脳機能障害への対応

県の委託を受けた「高次脳機能障害支援センター」では、作業療法士などによる訓練や相談を充実させます。

### ・チーム医療の推進

医師、看護師、療法士、栄養士など医療関係スタッフが密接に連携し、脳血管障害や神経難病、高次脳機能障害、脊髄障害、骨・関節障害などを有する患者さんの機能回復と社会復帰に努めます。

### ・難病医療協力病院の充実

富山県から難病医療協力病院の指定を受け、レスパイト入院(重症難病患者さんのご家族の休息のための入院)などに、積極的に協力します。



## こどもの療育

### ・チーム医療の推進

新病院では、施設設備面で重症児の受け入れ機能が充実するとともに、病院部門とこども支援部門とが一体の施設になることから、チーム医療によるライフステージを通した一層の支援の充実を図ります。

### ・入所児支援の充実

ひとりひとりの障害の状況や発達段階に合わせ、児童が将来、豊かで健全な社会生活を送れるよう支援します。

### ・地域生活支援機能の強化

障害児が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、療育支援や相談支援、訪問看護・訪問リハビリなどを一層充実させるとともに、保育所等訪問支援や主に重症児を対象とした放課後等デイサービス、生活介護及び日中一時、短期入所などを実施し、地域における生活支援を強化します。

### ・療育サービスの向上

障害児に対し、発達が気になる段階から適切な療育の提供に努めるとともに、富山県新生児聴覚検査事業の療育拠点施設として、聴覚障害の早期発見後の療育支援に努めます。

### ・発達障害児(者)支援の充実

富山県の委託を受けて運営している「発達障害者支援センター」では、市町村の関係機関と連携しながら、発達障害児(者)支援を地域で支える仕組み作りや、啓発、研修等による支援を行います。

### ・障害児相談支援事業

高志福祉相談センター(にこっと)と連携して、適切な福祉サービスを利用できるよう、サービス利用計画の作成や情報提供を行います。

育む

こどもの発達の遅れや多様な障害への対応と  
地域支援体制の強化を図り、  
お子さんとご家族が、安心して暮らして  
いくことができる地域づくりを進めます。



担う

地域リハビリテーションの中心的役割を担い、  
地域の医療・福祉・介護関係者と協力しながら、  
リハビリテーションの新時代をリードします。



## ● 地域リハビリとテクノエイド

### ・県の中核リハビリテーション施設としての強化

「富山県リハビリテーション支援センター」の指定を受け、地域リハビリテーション広域支援センター(6か所)に対し、人的・技術的支援や研修会、調査研究を行い、地域リハビリテーションの中心的・指導的役割を担っています。

### ・地域リハビリテーションの推進

障害児(者)が、地域で安心して生活できるよう、新病院に「地域リハビリテーション総合支援センター」を設置し、地域の医療・福祉・介護関係者と協働しながら、地域包括ケアシステムの構築に取り組みます。

### ・テクノエイドセンターの機能充実

障害者の自立と社会参加を支援するため、安全で使いやすい福祉機器の普及を促すとともに、大学等と共同研究を行うなど、新たな福祉機器の開発に取り組みます。

### ・ロボットリハビリの研究

富山大学と協働でロボットスーツHAL(ハル)の効果検証を行うとともに、トヨタ自動車と練習支援型リハビリロボット(歩行練習アシスト)を用いた共同研究の実施など、先進的・効果的なリハビリの研究に取り組みます。



歩行練習アシスト



ロボットスーツ HAL



自動車運転シミュレーター